

## 巻頭言

### 「露天風呂の月見酒」

第15回日本惑星科学会秋季会津大学大会を、無事終了できたことについて、皆様の御協力を感謝いたします。

会津の地名の由来は、古の昔の坂上田村麻呂の東方征伐にさかのぼります。太平洋側と日本海側の二手に分かれた両軍が、この津（盆地）で初めて出会ったという故事によるという話です。

奈良、平安の昔より東北地域の中心として栄えてきた会津の地ではありますが、寺社仏閣の国宝級の文物が京都、奈良について日本で3番目に多い地であるということは、あまり世には知られていません。

また、会津の地は東北地方の喉元にあたり、東北統治の要所であります。戦国時代、ダークホース的存在であった伊達政宗が、会津平定に時間をかけすぎたために天下統一レースに出遅れてしまい、その後、豊臣秀吉により仙台に移封されたことはあまりに有名です。蒲生氏郷を始め、徳川幕府においても歴代、会津藩主には、特に信頼の高い重臣が配置されてきており、また、質実剛健の地として知られていました。その結果は、松平容保が京都守護職に任せられ、戊辰の役への伏線となっています。ちなみに会津では、先の戦争というと未だに130年前の戊辰戦争の事を指します。

過去の出来事にもいろいろありますが、太陽系形成過程の事件を辿るのも、歴史の中に文化を見るのも、ある意味で同じ次元の文化のように思えます。

原始太陽系星雲で起きた惑星形成の数々の出来事、地殻活動が起これ、惑星進化をつかさどる幾多の出来事、その後の生命活動に至る過程を探るといことは、歴史の中の文化を探ることと何ら変わらない気がいたします。

今、探査機「はやぶさ」と小惑星「イトカワ」が出会いの時を迎える時の学会をこの会津で開いたわけですが、この成果が45億年前の出来事の解明の転換点となることを祈ってやみません。会津の地の再開発を目指し、コンピュータの導入によって新しい文化の発信を考え、またその中で惑星科学にどう貢献できるかを考えながら、忙しい毎日を過ごしています。

昨今の会津で誇れるものといえば、酒と温泉、水と空気、豊かな自然といったところでしょうか。地方に行く楽しみの一つに地酒があります。確かにその地で飲むと、どこの地酒でもそれなりにおいしいものですが、会津の酒はどこに出しても、どこで飲んででもおいしい酒です。これだけは保障します。

今私は、露天風呂に浸って、会津の酒をいただきながら、満天の星に太陽系の誕生を問いかけて過ごせる日々を夢見ています。

浅田智朗（会津大学）